

様式第7号の2（第8条関係）

2024年 4月 12日

（あて先）三鷹市議会議員

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 きらりいのちをめざす市民派・無所属・れいわ

代表者名 野村羊子

1 視察年月日	2023年10月12日（木）午後2時 ～ 午後4時
2 視察者氏名	<u>野村羊子</u> <u>伊沢けい子</u> <u>石井れいこ</u> <u>計 3 人</u>
3 視察先	東京都 荒川区
4 視察項目	(1)ゆいの森あらかわの施設概要について（複合施設のメリット・デメリット） (2)吉村昭記念文学館について (3)図書館の特長について
5 視察結果等	2017年3月に開館したゆいの森あらかわは、約60万冊の蔵書規模と、900を超える座席を備えている。郷土愛の醸成や文学に親しむきっかけを提供していると荒川区長が書いている通り、地域に関連した図書、美術や音楽、CDまで様々なジャンルの多さも特徴的である。 座席は、その日の気分によって変えられるよう、形状の違う椅子が取り揃えてあり、テーブルに関しても形状が違い、場所や音にも配慮された個室空間、静かに勉強する、テラス利用など用途によって選べるようになっている。車いすの人も通れる通路の設計や点字や文字の大きい図書など、多様性にも配慮されている。 複合型のメリットとしては、学び라운ジの利用で感じた疑問を調べるために関連図書の利用が増えたり、遊び라운ジを子どもと利用した保護者が、自分のために図書館を利用するようになったり相互関係が築けている。赤ちゃんの頃から本や図書館を身近に感じながら過ごすことで



将来の読書習慣の形成に寄与できるのではないか。賑わいを許容する施設として運営しているため、育児中の利用者から子どもが泣いてしまう時でも気兼ねなく利用できてよいと好評である。

吉村昭記念文学館では、実際の原稿の展示や、映像がながれていた。天井の高さもあることから、こじんまりとしていたが息苦しくない空間設計となっていた。

荒川区では2015年「吉村昭記念文学館友の会」を設立し、全国の皆様から吉村文学の神髄に触れることができる場としてご支援いただくことを目的とした「会費会員」を募集している。

個人会員（1年）1000円、個人会員（3年）2500円、法人会員3000円などあり、会員特典としては、会員証発行、広報誌の送付、図録の贈呈、会員限定・優先募集イベントなどの特典があることはこの三鷹市においても取り組める事業であると参考になった。

吉村昭記念文学館が図書館と併設されているメリットとしては、文学館の3階出口と接する図書館側に、吉村作品や敬愛する小説家などの書籍を集めた吉村昭コーナーを設置しているほか、企画展などと連動した関連本を紹介等することにより、区民と本との出会いの場を広げることができるとのこと。

図書館の特長としての一つ、施設内でえほん館と児童書コーナー、ティーンズコーナーが分かれている理由は、利用者のニーズや利用方法を踏まえ、あえて児童とティーンズの差別化を図っているとのこと。フロアが分かれているため、ワンアクセスできないというデメリットはあるものの、コーナーを分けることで、段階ごとのニーズに応じたサービスを提供している。

子どもひろばでは、毎日実施の乳幼児一時預かりもある。

赤ちゃんのハイハイエリアや、ごっこ遊びエリア、体を動かすエリアなど、幼児期の年齢に分けられた遊び場によって、子ども同士の衝突を防ぐことができ、親御さんも安心して遊べるスペースとなっている。

体験キットという部屋では、実験、工作などが楽しめる部屋になっており、物をつくることを楽しむ小学生の姿を想像することができた。

このように、図書だけでなく、「好奇心」という部分にも刺激がある空間づくりにより、より身近に楽しく「本」があるという、まさに『「読書を愛するまち・あらかわ」宣言』に記載のある、「読書は心の栄養です、読書は夢のタイムマシンです、読書は魔法の磁石です」を具体的に体現されたものであり大変参考になった。



